

WATERLESS CURRENT2003 年 11 月号

2 展示会よりの報告 IGAS2003 展と世界印刷技術者会議

作成 WPA・アーサー・ラフィーバー

日本語作成 日本 WPA・五百旗頭忠男

9 月 22 日から 28 日まで、東京で開催された大きな展示会、IGAS 展の間、我々は水なし印刷を代表して世界印刷技術者会議の環境パネルディスカッションに参加する榮譽を得た。大半はアジアからであるが、120,000 人以上もの訪問者が展示会に来られた。3 日間の世界印刷技術者会議は日本印刷産業団体連合会の主催により、世界の印刷界の相互理解促進を図るべく行われた。国際的な講演者の中には、the GATF/PIA (米国)の Ronnie Davis、Andrew Tribute(英国)、Frank Kanonik (米国)、Heidelberg Asia VP の Peter Foley(オーストラリア)、John Sweeney(米国)、Printing World の Gareth Ward(英国)、Editor Deutscher Drucker Verlag の編集長 Kurt Wolf(ドイツ)、その他、アジア各国からの印刷会社、メーカーの方々が講師を務めた。

9 月 24 日、会議の基調講演では Ronnie Davis 博士が「21 世紀にプリンティング・インフォマティクスは印刷工業にどのような影響を与えるか」と言う演題で講演された。この講演を受けて、新しい印刷技術がグローバル化したデジタル情報社会に貢献するか、と言う関連でパネルディスカッションが行われた。

このディスカッションの多くは、狙い客、個々に個人に合った訴求出力を施した、デジタル印刷とダイレクト・マーケティングの成功談に焦点が当てられていた。

9 月 25 日、IT / 標準化、環境、工場管理、変化する技術を巧に取り入れた成功者の事例紹介の 4 つの個別トラックが開催された。



この写真は、世界印刷技術者会議、3 つの環境パネルディスカッションの最初のディスカッション、左から英国の Charles Allison、WPA 専務理事・アーサー・ラフィーバー、光文社の社長・佐々木毅、モデレーター共同印刷株の寺田勝昭の各氏。



東レ・日本 WPA のスタンドは大変印象的で、大変攻撃的なマーケティング面を見せてつけていた。日本 WPA、東レ株式会社に水なし印刷の蝶々ロゴを大変目立たせる展示をしていただいたことを感謝する。

環境への焦点

環境パネルのテーマは、政府の環境規制、グリーン調達、エネルギー保全、化学品代替物に関する、現在のグリーン基準を検診した。米国から筆者が参加したが、パネルには欧州代表として Charles Allison、日本の印刷界を総括して光文社の佐々木毅の各氏が参加した。WPA のメンバーであり、14001 取得会社の共同印刷㈱・寺田勝昭氏がモデレーターを勤めた。

日本では環境は全印刷業者の関心事である。顕著なことに、264 社もの印刷会社が ISO14001 を取得している。

プレゼンテーションとそれに続くディスカッションで、印刷業者への環境規制圧力は世界的に上がっているが、北米の印刷業者への排出規制が最も厳格なことが明らかになった。印刷機械メーカーと有力な版材メーカーは特に、米国の環境規制につき、注意深く研究して頂きたい。関連メーカーが水なし印刷と VOC 削減洗浄液(洗油代替品)、あるいは、水洗浄性インキの組み合わせを米国市場で薦めていくと、米国での機械と版材の売上は確実に上がってくれよう。



IGAS 展では、東レ株式会社と日本 WPA とその会員企業の共同出品により、水なし印刷の成功事例が紹介され、WPA ロゴの一層の認知と浸透を図ることができた。

Beacon Press 社に名声

WPA の長年の会員、英国の Beacon Press 社につき、我々はパネルでは余り触れなかったが、Charles Allison 氏は大変、同社を注目して紹介された。その次ぎのセッションでも、ハイデルベルグ社の Ingrid Amon Tran 氏が印刷界では社会環境責任を果たしている顕著な事例として引用されていた。

IGAS で見られた新開発製品

水なし印刷関係での興味ある開発製品の一つとして、新しい版材と 2 色印刷機を OA 業界の雄、リコー株式会社から展示された。

リコー水なし版は通常水なし版の 1/5 のコストであるとしている。これは位相変換樹脂の技術を使っていて、4 回まで再生再焼き付けができるとしている。Ablative(溶発)ポリエステル版で熱で画像は形成される。この版式専用の試作の A3 判・2 色印刷機の写真が展示されていた。空冷冷却方式で毎分 120 ページの速度ができるものとしていた。

多忙な日程で詳細を良く見れなかったが、三井化学から現像不要のサーマル CTP 版が発表されていた。正式発表は drupa2004 で行われると言う。

以前にも WATERLESS CURRENT で報告したが、米国特許庁には最近、驚くほどの水なし版に関する特許が出願されている。AGFA、富士写真フィルム、Kodak Polychrome Graphics 社、その他からである。

このことは水なし印刷の水面下で技術革新が進行しているが、まだ、市場には出ていない。我々がメーカーに新しい水なし版の市場への導入を聞くと、「その市場性が薄いからね。」と言う、標準的な答えが帰ってくる。水なし版の競合製品を出してこそ、水なし版の市場成長への刺激となることに気付いておられない。

世界的な環境圧力が上がっていて、より多くの水なし版の選択幅の導入が待たれている。展示会期間中、少なくとも 4 社がノン VOC 洗浄液を出されていたが、これら材料の活用は水なし印刷の利点につながることだ。水洗浄性インキあるいは、ノン VOC 洗浄液を使った水なし印刷は環境負荷をなくしてくれる印刷の現実手法である。

ハマダ印刷機械では新機種・エコグラファァーA3・5 色機を実演していた。この機械に取り付ける版は機外製版されたものである。自動版替え装置があり、3 分間で確実に版替えができる。共通圧胴方式のコンパクト設計、キーレスインキング方式を採用している。

Presstek 社の DI 装置の革新的な段階のものとして、リヨービは新機種 A3 判・3404DI UV を展示した。実演が始まると人だかりであったが、疑いもなく、UV 印刷の能力の利点を評価してであろう。



IGASではハマダ印刷機械は機外製版・A3水なし専用5色印刷機を実演した。自動版つけ装置の特長を生かし、3分間で版替えを行っていた。

ラベルエキスポ・ヨーロッパ

我々の欧州連絡員、Bienvenido Andio が報告してくれたが、10月24日から27日までブラッセルで開催されたこの展示会では、少なからずも、水なし印刷を使ったものが展示されていた。ラベル印刷の分野は、他の印刷分野より高成長を続け、年間、6%の成長をはかっている。Andio のラベルエキスポの報告：

印刷会社が枚葉印刷機メーカーに水なし印刷機の導入にらいて聞くと、「顧客が求めているものを、どうして貴方は興味を持つのか?」との答がしばしばくる。これは印刷会社ももっと良い返事を求めて探しまわらねばならないとの兆候である。

しかし、ラベル印刷業者にとって見れば、これは当てはまらない。今年で新機種 CODIMAG Viva

340 が6台、Etipol 水なし印刷機が2台納入された。東レのシステムがラベル印刷市場ではしっかりとした地位を掴んでいる。

ラベルエキスポ・ヨーロッパ2003展の期間中、この成功は続いていて、もう一台の CODIMAG 機の注文が入ったが、これは展示会25周年の祝いとしてフランスの会社くれたものだ。CODIMAG のスタンドでは水なし専用 Viva 340 機がスターであった。25周年記念式典パーティでは WPA 理事長・Gerald Viergever (オーストラリア、AQ 社・社長) を含む数名のユーザーが集まってくれた。展示会の騒音にかき消され、Alain Demol の祝辞はほとんど聞けなかった。

パーティ会場からそう遠くない所で、Stork 社は Viva 340 専用のシルクスクリーン輪転装置を展示した。印刷機に有力な付加効用をもたらしてくれるこの装置は、既に数台が販売され、スペインでも入っている。この間、CODIMAG 社は主力製品をより水なし中心に生産集中している。時には機械の注文に生産が追いつけず、注文を取り逃がしたりしている。

CODIMAG は欧州では水なし印刷機の販売実績第一人者であるが、Etipol も水なし印刷機を展示した。本機は仕上げがきれいで、良く考えられた機構を持っている。展示本機はスペインの Valenci の顧客に向けられる。近所の印刷会社が VIVA 340 を入れるので、彼は Etipol

機を入れることにしたと言う。

水なし印刷では新参者の Mecamarc Malbate は迅速立上げ水なし印刷機を出してきた。ポールの代理店から確かめたのだが、既に数台は販売したものの納入先は明かさなかった。

三条機械と岩崎機械が展示会に出品はしていたが、ヨーロッパのどこへ機械を売っているのか情報が取れなかった。多分、岩崎の第1号機はラベルエキスポ展 2003 の後、平面刃型を付けていたのを見るとスペインへ入るのだろう。欧州市場への進出については、価格問題と知らされている。日本製の水なし印刷機の欧州進出については違う道筋を取っている。オフセット水なし印刷システムは中小ラベル印刷業者にとって一つの地位を築いてきたが、今や、大企業がその向上性能に目を向けるようになってきた。そこで、日本のメーカーでこの分野の第一人者、三条機械はその販売機会に浴されてくるであろう。

ラベル印刷のプロフェッショナルで、その新製品調査、ラベル印刷の傾向を調べている方々によると、ラベルエキスポ・ヨーロッパ 2003 ではラベル印刷における水なし印刷の地位が明確に確立されたとの考えを出している。

プレステック社は富士写真フィルム(株)を侵害訴訟

プレステック社は日本の富士写真フィルム(株)に対し同社の持つ平版印刷版の特許の侵害につき、特許侵害訴訟に踏みきった。訴訟はドイツ連邦共和国で受理された。「プレステック社は知的所有権と多くの OEM 供給製品の認可制を励ますものである。同時に、我々は市場での独自性、創造性を歓迎する。」とプレステック社の CEO である、Edward J. Marino は言っている。「しかし、我々は知的所有権の枠組と高品質製品の開発に甚大なる投資を行っていて、OEM パートナー、顧客、従業員、それに投資家へ、この投資を守る責任があると信じる。」と付け加える。

侵害製品はハイデルベルグ向けに富士が製造したものである。この訴訟の開始により、プレステック社が最近、ハイデルベルグ社と関係を結んだと発表した、OEM 協定書に影響を及ぼすこととはないとしている。

できごと

日本 WPA の五百旗頭忠男に IGAS 展での行動日程のご手配に感謝したい。水なし印刷の鍵を握るメーカー数社様と会合を持ったが、折衝結果は、楽観的に見させて頂いている。

東レ(株)の IGAS 展の成功を祝う、打ち上げパーティに参加させていただいたが、東レの社員の熱意とエネルギーを喜んで共有させて頂きたい。

パーティに参加された文祥堂印刷の松重精様とも、30 年間も水なし印刷を暖かく見つめて頂き、この興奮を共有したい。WATERLESS CURRENT 10 月号の印刷でご尽力いただいた文祥堂の社員の方々に感謝を感謝を申し上げたい。